



水稻 殺虫・殺菌剤/育苗箱施用剤

NEW

ブーンクロノス[®]

いもち病

ウンカ類

初期害虫

チョウ目

箱粒剤

高密度は種対応

は種時から

WCS[※]使用可

稲の病害抵抗性がアップ!

病害虫^{から}を守る!

- ・は種時～移植当日まで使用可能。
- ・コブノメイガに高い防除効果。
- ・高密度は種対応、WCS[※]使用可。



いもち病



トビイロウンカ



コブノメイガ



ニカメイチュウ



PyraXalt[®] active

Jemvelva[®] active

TM コルテバ・アグリサイエンスならびにその関連会社商標
® はクミアイ化学工業(株)の登録商標

※WCS:稲発酵粗飼料



ブーンクロノス[®]

箱粒剤

有効成分	スピネトラム …… 1.0%	トリフルメゾピリム …… 0.75%
	[スピネトラムJ …… 0.76%]	ジクロベンチアゾクス …… 2.0%
	[スピネトラムL …… 0.24%]	
人畜毒性	普通物 (毒劇物に該当しないものを指している通称)	

- 特長**
 - いもち病に優れた効果と長い残効性
 - 抵抗性ウンカ類、コブノメイガなどのチョウ目害虫に優れた効果
 - 稲に対する安全性が高く、播種時～移植当日まで使用可能

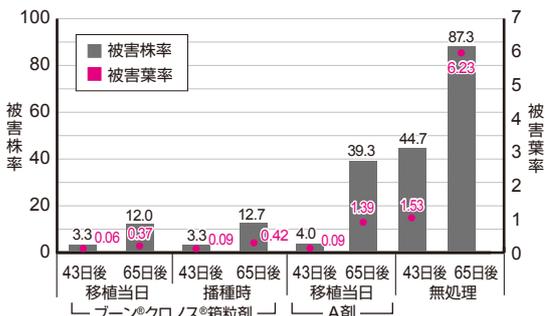
■ 適用病害虫と使用方法

2025年12月現在

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	ジクロベンチアゾクスを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病、もみ枯細菌病 内穎褐変病、 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ イネミスゾウムシ幼虫 コブノメイガ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	は種時 (覆土前) ～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に 散布する。	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)	1回	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)
	ニカメイチュウ	高密度には種する 場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g)						
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病、もみ枯細菌病 内穎褐変病、 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ イネミスゾウムシ幼虫 コブノメイガ	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植当日	1回	育苗箱の上から均一に 散布する。	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)	1回	3回以内 (移植時までの 処理は1回以内、 本田での散布は 2回以内)
		高密度には種する 場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g)						

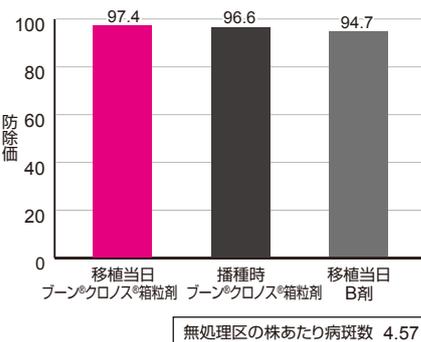
■ 新農薬実用化試験成績

● コブノメイガに対する効果



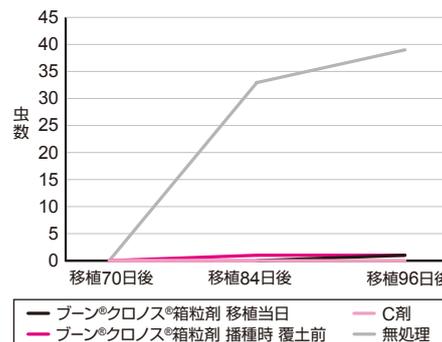
2024年 鹿児島県農業開発総合センター
品 種：ヒノヒカリ
播 種：5月20日
移 植：6月11日
発生程度：少～中
調 査 日：7月24日(移植43日後)8月15日(移植65日後)
調 査 方 法：各区50株×3か所について移植43日後は全葉、
移植65日後は上位3葉について被害株数、
被害葉数を調査

● 葉いもち病に対する効果



2024年 秋田県農業試験場
品 種：ナツミノリ
播 種：4月11日
移 植：5月15日
発生程度：中(接種)
調 査 日：7月8日
調 査 方 法：各区100株×2地点の株あたり病斑数を
調査し防除値を求めた

● トビイロウンカに対する効果



2024年 日本植物防疫協会宮崎試験場
品 種：ヒノヒカリ
播 種：6月6日
移 植：6月26日
発生程度：少
調 査 日：9月4日(移植70日後)、9月18日(移植84日後)、
9月30日(移植96日後)
調 査 方 法：各区30株×3か所計90株について粘着版に
付着した虫数を調査

【使用上の注意事項】

- 使用量に合わせ秤量し、使い切ってください。
- 所定量を育苗箱中の苗の上から均一に散布してください。なお、葉に付着した薬剤は軽く払い落としてください。
- 苗を田植機にのせる際、育苗箱の土壌表面が乾燥している場合は薬剤が落下するおそれがあるため、散布後に葉に付着した薬剤を払い落とす後軽く灌水してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 軟弱徒長苗、むれ苗または苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後田面が露出しないように注意してください。
- いぐさ栽培予定水田では使用しないでください。また、処理した稲苗を移植した水田及び隣接した水田ではいぐさを栽培しないでください。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行ってください。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけてください。

- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください(刺激性)。
- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に入らないよう水管理に注意してください。
- 保管…密封し、直射日光を避け、冷涼・乾燥した場所に保管してください。

詳しい使い方、登録内容とSDSはこちらから。

本資料は2025年12月現在の
知見に基づいて制作しております。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ● 防除日誌を記載しましょう。